

応制天橋立（釈希世）

碧海の中央六里の松

天橋の絶景是れ仙蹤

夜深うして人は龍燈の出づるを待つ

月は落つ文殊堂裏の鐘

碧海中央六甲松 天橋絶景是仙蹤
夜深人待龍燈出 月落文殊堂裏鐘

解説 京都の天の橋立のすばらしい風景を詠じた詩。

語釈 ※碧海Ⅱ青海原。 ※六里松Ⅱ六里も続く松林。

※天橋Ⅱ天の橋立。 ※仙蹤Ⅱ仙人の足跡。 ※龍燈Ⅱ海中の
燐光がときに燈火のように現われるもの。 ※文殊堂Ⅱ天の
橋立の南方にある天橋山智恩寺。

通釈 青海原の真中に松の緑が六里も続いている。それは
仙人の遊んだ足跡と思われるほど美しい景色である。夜が
更けてきらめく龍灯の光が出てくるのを待っていると、や
がて月も沈むころ、文殊堂の鐘の音が水を渡って響いてきた。